

令和6年度（2024年度） 大分大学一般選抜前期試験問題

出題の意図

小論文

（福祉健康科学部）

※この出題の意図についての質問・照会には一切応じません。

- 1 団塊の世代が保健・医療・福祉の対象者となる現代社会において対象者の多様性が指摘されている。対象者の時代背景を確認しながら、その人らしさの尊重や人格の尊厳が求められる中で、支援の基盤となる幸福感を文章から読み取り、理学療法学、社会福祉学、心理学の専門職として重視される論理的思考力と文章能力を確認する。また、対象者中心主義の観点から、幸福感についての考察へと思考が展開することで保健・福祉・医療にかかわる人財としての資質を問うことを意図している。
- 2 少子化による世帯規模の縮小が進むと、小・中学校の減少や子どもの社会性発達に関する様々な影響があげられる。図より、1) 生産年齢人口が減少し、経済が不安定になる、2) 未婚率が増加するので少子化が進む、3) 共働きが増加するので、社会保障の充実が求められる。これらを総合的に読み取ることで、我が国の現状を概説すると共に、これからの子どもを産み育てやすい環境づくりの在り方について意見を論理的に述べる。
- 3 少子化が進む我が国において、社会全体で子育て家庭を支援することが課題となっている。本問題では、まず子育て家庭が抱える悩みや不安をデータから読み取り論点を整理する判断力・思考力をみる。その上で、子育て家庭を支援する取り組み策について述べさせることで、論理的思考力および文章表現力を問う。また、子育て家庭が不安や悩みを相談・共有する人がいない現状に対して、どのような支援が必要なのか論述させることで、福祉の専門職としての資質を問うことを意図している。